



市協紙
松青機
江少関
No.45
発行
平成30年
11月



松江市青少年育成連絡協議会
会長 岡 賢悟

新時代の青少協の在り方

スマホは持たない!と公言していた私ですが持つようになりました。先日はテレビでドローンを大きくしたような空飛ぶクルマの製作が報道され、もうすぐ身近なものになりそうな予感がしました。世の中は進化・変化の連続で、近い将来でさえ予測が困難となりました。

平成20年改訂の学習指導要領も9年が経ち、今回8回目の改訂がありました。

新時代に求められる資質・能力を子供たちに育むことを自指して「社会に開かれた教育課程」に教育が変わろうとしています。方法は学校と地域社会が連携・協働するものです。

こうした学校教育の変化に社会教育も対応していくなければなりません。

少子化の影響もあり、異年齢の児童生徒が協働する経験が少なくなり、中・高校生共に異年齢との触れ合い・交流が少ない、時間がとりにくい状況ではないかと思います。

そこで私たちの青少年育成協議会の在り方はどうあればいいのか、私は【青少年の奉仕活動や体験活動の推進】に力点を置き、これらの活動の【橋渡し・お世話役】の役割を果たすべきではないかと思います。

幸いにも松江市内、29地区青少協が各地域の実情に合わせ工夫された活動が展開されており、素晴らしいこと感謝しています。

川津児童クラブの協力を得て、夏休みに中学生の社会奉仕体験活動を実施しようと考えました。松江市には『放課後児童健全育成事業』として小学校1~3年生を対象とした43の公設児童クラブがあります。川津児童クラブの協力を得て、取り組んでいる事例を紹介いたします。

去年、夏休みに松江市立第一中学校の生徒(以下「二中生」という)、1~3年生の5人がボランティアとして、4日間(午前中)、勉強(1学期の学習内容の確認プリントの採点や学習相談)のお手伝いをしました。結果は、「二中生全員が「次も参加したい」と答えていました。二中生の保護者も好意的な態度でした。児童クラブの児童たちや指導員の方にも大好評でした。そこで今夏は拡充し、8日間に。「勉強」を4日間と「卓球」「水泳」を各2日間です。「二中生が21人参加を希望しました。

特筆すべきは、思いがけず松江東高校との連携が実現し、3年生で教職を志望する生徒7人の参加がありました。高校生の感想について進路指導の先生は「生徒たちが何れも教員になるに当たつての難しさを体験しつつ、元教員の方の細かな目配りを感じ、その向こうにあるやりがいを実感していました。教員になりたいという思いが強くなつた」「今後もこうした機会を持ちたい」とありました。二中生は「初めて学習面で触れ合い、嬉しかった。あいさつや笑顔は大切と感じた。高校生は考え方や子供たちとの関わりが上手だ。地域で楽しく活動できた。次も参加したい」等。計画した私たちは生徒たちの優しさ・誠実さが心に残り、実施して良かった!とつくづく感じました。

未来を創る子供たちにとって、私たち大人の役割はどうあるべきかをこれからも考えていかたいと思います。

松江市青少年育成連絡協議会・各地区青少年育成協議会では

こんな事業をしています!

総会

◎平成30年度総会◎

子どもの健全育成研修会

小学校区・中学校区で講演会・意見交換会等の研修を実施しています。
大野・古江・秋鹿

自立と社会参加

◎夏休み子どもの居場所づくり◎
◎中学生企画イベント◎

朝酌

◎防災学習会◎
◎地域リーダー合同研修会◎

少年見守りパトロール事業

◎合同パトロール◎
子どもたちの安全のため、パトロールや見守り活動を実施しています。
八雲・東出雲

有害図書の回収事業

平成29年度は6,454冊の有害図書類を黄色いポストで回収しています。
乃木

家庭・地域における啓発活動

●青少年の非行・被害防止全国強調月間 7月
●子ども・若者育成支援強調月間 11月

この印刷物は環境に優しい植物油インクを使用しています。 VEGETABLE OIL INK

子どもの健全育成研修会実践発表会

実践発表の中から活動の一部を紹介します。

とき：平成30年3月24日(土)
ところ：松江市宍道公民館



○事業の目的・期待する効果
NPO法人あしづえとの共催で実施。
「暮らし体験」では、役割を担う、人と協力する、折り合いをつける、イメージする、予測して行動するといった力を育む。異なる年齢の子どもたちが、協力し合い、それぞれの役割を担うことで、自己有用感や自尊感情を育む。また、失敗を恐れず、自ら感じて、自ら生きる力を探る。

○事業内容・対象
対象…小学校3年生(6年生19名)
会場…森の劇場しいの実シアター
講師…人形劇団ひばほたあむ永野むづみ氏、大澤直氏

○事業の目的・期待する効果
川津地区青少協は、平成29年度松江区青少年協モデル事業として、川津地区的小学生を対象に「川津キッズ・ふるさと環境レンジヤー・養成講習会」を実施しました。



テント設営の練習

○他団体との連携
企画・運営に当たっては、「川津PTA」との話し合いの場を持ち、この活動の趣旨への理解を得て周知

て、児童の夏休み期間中の自主的な活動を考えて、児童の夏休み期間中の自主的な活動を実施しました。

○事業の目的・期待する効果
川津地区の青少年が、ふるさとの自然に興味・関心を持ち、川津地区的シンボルでもある《樂山公園》の自然（草花、昆虫、鳥類）や危険な動植物などの理解を深めて、今後、自然環境の保全に関心を持つことをねらいとしています。そしてテント設営練習、ランチやおやつづくり、ネイチャークラフトにも挑戦し、楽しい自然体験活動を行う中で仲間をつくり、併せて、児童の夏休み期間中の自主的な活動を考える機会とすることを目的として実施しました。

○事業内容
川津地区に本拠地をもつ子どもの《自然体験活動支援団体「しまね四季の学び舎」》の《キッズ・ふるさと環境レンジヤー・養成プログラム》に基づき、指導者に環境省公園指導員、島根県環境レンジャー、日本キャンプ協会インストラクターを迎えて、自然観察（樂山の動植物「松の木の年齢を

かた」「家でも自分で台本を書いたらしていいなど、家族からも明るい成果が報告されている。中学生になった昨年の参加者がOBでしかできない体験」への需要が高まっていることを実感した。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川津地区パトロールママの会、しまね四季の学び舎などを通じて運営・企画についての話し合いを重ね、様々な形態での連携を図りました。

川津地区青少年育成協議会 副会長 福田 悟

「川津キッズ・ふるさと環境レンジヤー・養成講習会」

川津地区青少年育成協議会 副会長 福田 悟

○事業の目的・期待する効果
劇場内を探検！
人形劇のいろいろ
・世界でたった一つの自分の人形を創ろう！
・自分の身体をうごかしてみよう
・作った人形を動かしてみよう
・音楽・音楽を楽しむ
・お互いの人形の動きを見よう！

○事業内容・対象
対象…小学校3年生(6年生19名)
会場…森の劇場しいの実シアター
講師…人形劇団ひばほたあむ永野むづみ氏、大澤直氏



自分の人形づくり

○前年度と大きく変わったところ
「暮らし体験」の内容。前回の体験は、薪で火をおこして、飯盒炊飯やカレー作りをしました。今回は、ものづくりをテーマに人形づくり（自分で布を選び、裁つた布を、針と糸で縫い作製する）から劇づくりを行った。

○事業の目的・期待する効果
NPO法人あしづえとの共催で実施。「暮らし体験」では、役割を担う、人と協力する、折り合いをつける、イメージする、予測して行動するといった力を育む。異なる年齢の子どもたちが、協力し合い、それぞれの役割を担うことで、自己有用感や自尊感情を育む。また、失敗を恐れず、自ら感じて、自ら生きる力を探る。

○事業内容・対象
対象…小学校3年生(6年生19名)
会場…森の劇場しいの実シアター
講師…人形劇団ひばほたあむ永野むづみ氏、大澤直氏



人形の基本的な動きをまなぶエチュード

八雲青少年育成の会 会長 須山 美玲

○スタッフの心構え
子どもたちが自ら気付く力を育むには、大人が先に手を出さずに、じっと見守るという姿勢が大切。これは、意外と難しいこと。つい口や手を出しそうになるのをぐつと堪え、求められたフオロー。スタッフも、子どもたちの自発性を活かすよう心掛けた。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の課題は「次世代への継承」と言われている。ことからも、参加した児童たちが彼らの異年齢間の仲間ととおして、ふるさとの自然を守り伝えていくて欲しいと思っています。

○事業内容
川津地区に本拠地をもつ子どもの《自然体験活動支援団体「しまね四季の学び舎」》の《キッズ・ふるさと環境レンジヤー・養成プログラム》に基づき、指導者に環境省公園指導員、島根県環境レンジャー、日本キャンプ協会インストラクターを迎えて、自然観察（樂山の動植物「松の木の年齢を

かた」「家でも自分で台本を書いたらしていいなど、家族からも明るい成果が報告されている。中学生になった昨年の参加者がOBでしかできない体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川津地区パトロールママの会、しまね四季の学び舎などを通じて運営・企画についての話し合いを重ね、様々な形態での連携を図りました。

○スタッフの心構え
子どもたちが自ら気付く力を育むには、大人が先に手を出さずに、じっと見守るという姿勢が大切。これは、意外と難しいこと。つい口や手を出しそうになるのをぐつと堪え、求められたフオロー。スタッフも、子どもたちの自発性を活かすよう心掛けた。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川津地区パトロールママの会、しまね四季の学び舎などを通じて運営・企画についての話し合いを重ね、様々な形態での連携を図りました。

○スタッフの心構え
子どもたちが自ら気付く力を育むには、大人が先に手を出さずに、じっと見守るという姿勢が大切。これは、意外と難しいこと。つい口や手を出しそうになるのをぐつと堪え、求められたフオロー。スタッフも、子どもたちの自発性を活かすよう心掛けた。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川津地区パトロールママの会、しまね四季の学び舎などを通じて運営・企画についての話し合いを重ね、様々な形態での連携を図りました。

○スタッフの心構え
子どもたちが自ら気付く力を育むには、大人が先に手を出さずに、じっと見守るという姿勢が大切。これは、意外と難しいこと。つい口や手を出しそうになるのをぐつと堪え、求められたフオロー。スタッフも、子どもたちの自発性を活かすよう心掛けた。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川津地区パトロールママの会、しまね四季の学び舎などを通じて運営・企画についての話し合いを重ね、様々な形態での連携を図りました。

○スタッフの心構え
子どもたちが自ら気付く力を育むには、大人が先に手を出さずに、じっと見守るという姿勢が大切。これは、意外と難しいこと。つい口や手を出しそうになるのをぐつと堪え、求められたフオロー。スタッフも、子どもたちの自発性を活かすよう心掛けた。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川津地区パトロールママの会、しまね四季の学び舎などを通じて運営・企画についての話し合いを重ね、様々な形態での連携を図りました。

○スタッフの心構え
子どもたちが自ら気付く力を育むには、大人が先に手を出さずに、じっと見守るという姿勢が大切。これは、意外と難しいこと。つい口や手を出しそうになるのをぐつと堪え、求められたフオロー。スタッフも、子どもたちの自発性を活かすよう心掛けた。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川津地区パトロールママの会、しまね四季の学び舎などを通じて運営・企画についての話し合いを重ね、様々な形態での連携を図りました。

○スタッフの心構え
子どもたちが自ら気付く力を育むには、大人が先に手を出さずに、じっと見守るという姿勢が大切。これは、意外と難しいこと。つい口や手を出しそうになるのをぐつと堪え、求められたフオロー。スタッフも、子どもたちの自発性を活かすよう心掛けた。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川津地区パトロールママの会、しまね四季の学び舎などを通じて運営・企画についての話し合いを重ね、様々な形態での連携を図りました。

○スタッフの心構え
子どもたちが自ら気付く力を育むには、大人が先に手を出さずに、じっと見守るという姿勢が大切。これは、意外と難しいこと。つい口や手を出しそうになるのをぐつと堪え、求められたフオロー。スタッフも、子どもたちの自発性を活かすよう心掛けた。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川津地区パトロールママの会、しまね四季の学び舎などを通じて運営・企画についての話し合いを重ね、様々な形態での連携を図りました。

○スタッフの心構え
子どもたちが自ら気付く力を育むには、大人が先に手を出さずに、じっと見守るという姿勢が大切。これは、意外と難しいこと。つい口や手を出しそうになるのをぐつと堪え、求められたフオロー。スタッフも、子どもたちの自発性を活かすよう心掛けた。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川津地区パトロールママの会、しまね四季の学び舎などを通じて運営・企画についての話し合いを重ね、様々な形態での連携を図りました。

○スタッフの心構え
子どもたちが自ら気付く力を育むには、大人が先に手を出さずに、じっと見守るという姿勢が大切。これは、意外と難しいこと。つい口や手を出しそうになるのをぐつと堪え、求められたフオロー。スタッフも、子どもたちの自発性を活かすよう心掛けた。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川津地区パトロールママの会、しまね四季の学び舎などを通じて運営・企画についての話し合いを重ね、様々な形態での連携を図りました。

○スタッフの心構え
子どもたちが自ら気付く力を育むには、大人が先に手を出さずに、じっと見守るという姿勢が大切。これは、意外と難しいこと。つい口や手を出しそうになるのをぐつと堪え、求められたフオロー。スタッフも、子どもたちの自発性を活かすよう心掛けた。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川津地区パトロールママの会、しまね四季の学び舎などを通じて運営・企画についての話し合いを重ね、様々な形態での連携を図りました。

○スタッフの心構え
子どもたちが自ら気付く力を育むには、大人が先に手を出さずに、じっと見守るという姿勢が大切。これは、意外と難しいこと。つい口や手を出しそうになるのをぐつと堪え、求められたフオロー。スタッフも、子どもたちの自発性を活かすよう心掛けた。

○事業を終えて
未来学校3年目となる今年は、定員を超えて19名の応募があり、学校や家庭ではなく、「暮らし体験」への需要が高まっていることを実感した。

が見守る姿勢づくりをスタッフ全員で共有した。

○事業の目的・期待する効果
川津のシンボル“樂山公園”での自然観察の方法等についての協力・助言をいたしました。

○事業内容
川